

【水問題と私達にできること】

福岡県 春日市立春日野中学校 三年 牧野 風香

私は、水、特に水道水が好きではない。口に含むと広がる独特の香りや、少しの苦みがどうも口に合わないからだ。

しかし、私にも水をとっても美味しく感じる時がある。それは体を動かし、クタクタになった時によく飲んだ水だ。

水泳部に所属している私は、夏にはまるで温泉のように暑いプールで泳いでいる。泳ぎ疲れた頃には、「もうなんでも良いから飲みたい。」という気持ちでいっぱいになる。やつとの思いで飲むことが出来た水は、普段飲んでいゝる水の何倍も美味しく感じられる。

なぜこの時、いつも以上に水を美味しく感じたのか気になったため調べてみると、運動した後などは身体から水分が失われ、水を求めている状態のため脳が水を美味しく感じるといふことらしい。

そもそも人間の約六〇パーセントは水できているというが、これよりも割合が下がった場合はどうなるのか。なんと体内から二〇パーセント以上減少した場合、死んでしまう可能性があるという。

このように、生きるために水は必要不可欠であるが、その水が原因で死亡してしまう人達がいるとテレビで見たことがある。

特に発展途上国の多いアフリカでは、池や川、野ざらしの井戸など飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、その水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水であるそう。なんと年間三〇万人、毎日八百人以上の乳幼児が汚れた水を主要原因とする下痢で命を落としている。

私はこの状況を知って、日本では当たり前前にきれいな水が飲めて、水道が整備されているのをありがたく思った。世界では、蛇口をひねっても、安心して使用できる水を手に入れることができない国が多く、そもそも水道が整

備されていない地域も少なくない。

主な原因は国土の面積やコスト面の問題で、大きな国はインフラ整備に時間や費用もかかり、簡単ではない。また発展途上国では整備をする能力のある技術者が少なかったり、元々の水質が悪く、処理できなかったりする。

今の私達には国に金銭面や技術面で支援をすることは難しいため、他にできることはないか、日常で取り組めることを調べてみた。

まずは、節水。地球上にある水は無限ではなく、限りある資源のため、自然環境の保全につながる資源を大切に使うよう心がけたいものである。

具体的にどんな方法があるのか。一つ目はお風呂と洗濯の水の節水。シャワーを使う時は、出しっぱなしにせず、こまめに開け閉めをすること。一分間出し続けていると、約十二リットルもの水が流れ出てしまうそう。また、お風呂の残り湯を洗濯、洗車、植物への散水などに再利用すると、水道料金の節約にもなる。

二つ目は、炊事の水の節水。食器を洗う際に使う洗剤は適量を、流し洗いではなくため洗いやつけおき洗いに変わると、多く節水できる。

その他には、植物や庭への水やりをする時は、お米のとき汁を使ったり、歯を磨く時に使う水はコップにくんだりするなど、今日からできる取り組みがたくさんあることが分かった。

私は今回調べてみて、日本で安心して水を使うことができるのは、当たり前ではないこと、世界では汚れた水を飲み、亡くなっている子供がいるというところ、水資源を守るために私達は節水ができることを知った。今まで意識していなかった水を大切にしようとする気持ちが芽生え、節水にも挑戦してみようと思うことができた。これからは、少し苦手な水道水も、美味しく感じるのかもしれない。